

なっきょん

2012 秋



奈良教育大学イメージキャラクター
「なっきょん」

奈良教育大学 広報誌

NARAYAMA

NARA UNIVERSITY OF EDUCATION'S
SEASONAL PUBLICATION

<題字>名誉教授 池田 桂鳳

特集

教職大学院

～専門性と実践力を
兼ね備えた教員を育成～

羅針盤

「学ぶ喜び」プロジェクト

クローズアップ

いじめ解決に必要なことを
研究する

池島徳大教授

ラボ・レター

幼年教育 掘越紀香研究室

なっきょん's CLUB 企画

奈教のひみつ

ブカツ魂!

硬式野球部



CONTENTS



2 特集 教職大学院 ～専門性と実践力を兼ね備えた教員を育成～

7 羅針盤 「学ぶ喜びを知り、自ら学び続ける」教員の養成に向けた 持続可能な発展のための教育活性化プロジェクト

10 ラボ・レター 幼年教育 堀越紀香研究室

11 クローズアップ いじめ解決に必要なことを研究する池島徳大教授

14 ひと・あれ・これ 奈良県教育委員会に勤務する東畠智子さん

15 なっきょん's CLUB企画 奈教のひみつ ～学内施設紹介～

17 留学生レポート ロック・ハイブン大学(アメリカ) 成広千恵さんとキーン ティモシー チャールズさん

19 キラリ☆奈教生 書道展大賞を受賞した柳澤美希さん

20 ブカツ魂! 硬式野球部

20 活躍する奈教生

21 キャンパスニュース

22 奈良に息づく仲間たち

23 奈教生に聞きました! 大学内のおすすめスポットは?



表紙のはなし

学校実践

表紙の写真は、教職大学院の実習科目「学校実践」で授業を行っている教職大学院の廣田枝里子さん。「理論と実践の往還」を体現すべく、連携協力校で実習を行っています。それまでに学んだことを存分に生かし、また自分の研究関心に関わる事柄だけに絞るのではなく、視野を広くし、日々積極的に熱意を持って取り組みます。



特集

教職大学院

～専門性と実践力を兼ね備えた教員を養成～

奈良教育大学の大学院教育学研究科には、修士課程と専門職学位課程があります。このうち専門職学位課程は、いわゆる『教職大学院』のことです。『教職大学院』は、山積する教育問題への喫緊の対応が求められる近年において、専門性と実践力に裏打ちされた高度専門職業人としての教員の資質能力を高めるべく、2008年4月に開設されました。

今回の特集では、開設後4年が経過し、修了生が各所で活躍している奈良教育大学教職大学院の特徴や取組について紹介します。



一般的な大学院との違い

修士課程と同じ2年制ですが、教育実習が義務化されており、教科指導と生徒指導を一体的に捉えて個々に応じた指導ができ、また学校の諸問題を組織的に解決できる力量を身につけることを目的にしています。

本学では、「理論と実践の往還」の取組として、大学と学校がよいパートナーとなって、院生が共同で学ぶという新たな実践知の共同体を形成して実践研究を深めており、また、連携協力校と大学教員とがチームを組んで学校で実践研究を行う、という取組をしています。

アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

Admission Policy

- ◆教職に関する実践的な専門性を培い、高度な実践力を身につけたいという目的を持つ現職教員
- ◆学部、大学院の出身者で、教職に関心があり、より実践的な専門性を培い、教職に関する高度な実践力を身につけたいという目的を持つ人

特 色

指導体制

院生が入学時に決めた課題解決に向けて、大学と連携協力校が共に、チームを組み、複数の教員で指導に当たります。

学習の場

大学での講義のほかに、連携協力校など大学外で学ぶことが多くあります。

科目の履修

入学時に、院生が修了時まで目指す教師像、解決したい課題を教員集団と相談・決定の上、教育課程を確定し、科目を選択履修します。

修了認定

教育課程の45単位を修得した上で、学生が作成・発表したポートフォリオの質的レベルをもって、目指す教師像の基準に照らし、修了の認定を行います。

学位教員免許状

学位は、「教職修士（専門職）」となります。取得できる教員免許状は、現在取得している教員免許状を基礎に、幼稚園、小学校、中学校（各教科）、高等学校（各教科）の専修免許状を取得することができます。

カリキュラムの特徴

カリキュラムは、下図に示すように、「共通科目（5領域）」と「3つの実践科目」と「深化を図る科目」から構成されています。



平成25年度、カリキュラムを一部変更する場合があります。



教職大学院の 特徴的な取組

本学教職大学院の特徴として『3つの教師像に基づくカリキュラム・フレームワーク』、『学生集団と教員集団との協働的な学びの実現(各科目の中での理論と実践の融合)』、『電子ポートフォリオの活用』等があげられます。これらは、平成23年度に教員養成評価機構が行った認証評価でも高い評価を受けています。

1 学校実践

本学教職大学院では、連携協力校で実際に児童と関わって学びを深める4回の学校実践があります。学校実践Ⅰ・Ⅱでは、小・中学校の授業観察を通して、指導方法や学級経営を学びます。学校実践Ⅲは、授業実践によって学びを深めます。そして、学校実践Ⅳでは自ら設定した研究テーマに沿って、実践研究の力量を培います。

院生の 声



教育学研究科専門職学位課程
(教職大学院) 1 回生

きしもと あきら
岸本 陽さん

私の場合、授業観察が中心の学校実践Ⅰ・Ⅱでは、発問の仕方や板書の工夫を学ぶとともに、先生方の学級経営上の苦労や工夫についても学べました。学校実践Ⅲでは、大学院の講義や学校実践Ⅰ・Ⅱの学びを踏ま

えて授業実践に取り組みます。自らの授業実践では、特に学習意欲を高める発問の仕方を工夫し、授業をしました。

しかし、授業することは難しく、大学院や連携協力校の先生方から指導していただいた理論や方法を生かしきれませんでした。そこで、次の学校実践に向けて実践力を向上させたいと思い、院生間で模擬授業をしたり話し合ったりするなど、学校実践で得た一つひとつの学びを振り返りました。

10月には、学校実践Ⅳが始まります。私は学校実践Ⅳで、子どもたちの日常生活と学習内容とを関連づけて関心を高め、問題解決の楽しさを見出すことによって意欲を高め、さらに自分で考えたことを表現し伝える活動を通して、多くの子どもたちに学ぶ楽しさを実感してもらいたいと考えています。私にとって学校実践は、自分の成長を確かめる学びの機会だと言えます。

担当教員 より



教職開発講座(教職大学院) 教授

やまもと よしのぶ
山本 吉延先生

「凡庸な教師はただしゃべる。よい教師は説明する。優秀な教師はやってみせる。最高の教師は子どもの心に火をつける。」これは教師像を語るときに、よく引き合いに出されるウィリアム・ウオードの言葉です。学校

の課題が複雑化する現在、これだけの言葉で教師像を語るに足るかといえは少々心許ない気もしますが、子どもたちの学ぶ心に火をつけられる教師に対する憧れは、教職を学ぶ者にとっては永遠のものであると思います。

本学教職大学院で学ぶ院生にとって学校実践Ⅰ～Ⅳは、学部時代の教育実習と比べ、より大きな意味を持ちます。それは、学校実践ⅠからⅣへとステップを重ねるたびに、ウィリアム・ウオードの言葉のように教員としてより高次の資質能力が求められるからです。

特に最後の学校実践Ⅳでは、授業力だけでなく、目指す教師像にふさわしい研究テーマを設定し、実践研究の力量を培うことも求められます。その実現のためには、自分の実践を、これまでに学んだ諸理論と結び付けて分析的に省察することが重要な活動となります。まさに、理論と実践の往還を体現する活動だと言えます。

この学校実践を支えていただくのが、連携協力校の学校長はじめ、直接指導いただく先生方です。多様な課題を抱え、多忙を極める中、後輩を育てる気持ちでご指導いただき、院生はもちろんのこと、我々も感謝の気持ちでいっぱいです。恩返しは、子どもの心に火を点けられる教員を一人でも多く世に送り出すことだと心得、連携校での実践と大学院での授業をより強く関連づけたいと考えています。

学び全体を通して…

修了生の声

「教職大学院の学びを 子どもたちへ…」



葛城市立磐城小学校
おかしま すみ
岡島 眞寿美さん

教科の専門性に強い教師を目指して、教職大学院で学んだ二年間。専門的な知識や教師としての大切な資質を改めて学ぶことができました。「子どもたちに学ぶことの楽しさを伝えたい。」そんな思いで、現場に戻った今、「理論と実践の往還」という言葉を実感しています。これからも、子どもたちとともに、しっかりと歩んでいきたいです。



2 十津川サマースクール

十津川村の子どもたちとの学習交流を通して、教員としての専門性・実践力を高めるとともに、へき地教育の現状を学んでいます。

院生の声



教育学研究科専門職学位課程（教職大学院）2回生

しょうの あつこ
庄野 敦子さん

豊かな自然の中で育った純粋な子ども達と接した三日間は、かけがえのない貴重な学びがありました。「もっと知りたい」「刺激的だった」と言ってくれた子どもたちに、今後どのように応えるのか…。そのことを意識しながら研究に励み、成長し続ける先生を目指します。

教職開発講座（教職大学院）専任講師

かわい やすひで
河合 保秀 先生

この事業は院生にとって、子どもたちの活動を伴ったダイナミックな指導内容や方法を工夫する貴重な機会となっています。教員に総合的な人間力等が求められる中、TT（チームティーチング）によるグループ指導法の開発やチームで対応する力を磨くプロジェクトとして確立したと考えています。

担当教員より



4 3年、4年コース

本学教職大学院においては、小学校教諭1種免許状を有しない院生を対象として、3年又は4年コース「小学校教員免許状取得プログラム」を開設しています。

院生の声



教育学研究科専門職学位課程（教職大学院）3年コース

たけだ じゅんや
竹田 隼也さん

私は現在、小学校教員免許状取得を目指して勉強しています。同じ3、4年コースの学生には社会人やさまざまな大学からきた学生がいますが、全員が同じ目標に向かっていきます。そのため、互いの意見を交換したり、経験を語り合ったり、時には楽しんだりしながら互いを高め合っています。

教職開発講座（教職大学院）准教授

かわさき ともえ
河崎 智恵先生

3年、4年コースでは、1年次に小学校教諭1種免許状取得に必要な授業科目を履修した後、2年次、3年次において、通常の教職大学院の教育課程を履修します。初年度は主に学部での授業を中心に、教職大学院でのゼミやプログラムに参加して、教職大学院の教育課程へつながる学びを深めています。

担当教員より



3 院生の連携

教職開発講座（教職大学院）特任准教授

まつい ひでふみ
松井 秀史 先生

「クリエイティブな学びを育む院生の連携」

担当教員より



教職大学院における学びは、実践科目やフィールドベースの演習科目に代表されるように、院生が互いにコミュニケーションを深めながら連携し、協働して学ぶ中で専門性や実践力を高める仕組みになっています。こうした中、院生から発せられる考えには現職教員、ストレート、社会人など多彩なバックグラウンドを持つ他の院生から、様々なフィードバックが寄せられ、それが学びの洗練化につながっていきます。厳しい中にも高め合おうとする連携・協働の心、これが院生のクリエイティブな学びの基盤になっています。また、折々の季節には院生の企画によるフィールドトリップなどが準備され、院生にとって互いに違う一面を発見できる和みのひとときともなっています。

5 100クラブ（教採対策）

院生の声



教育学研究科専門職学位課程（教職大学院）2回生

ひろた えりこ
廣田 枝里子さん

「本番さながらの対策」

「100クラブ」は、教員採用試験の本番をイメージできる対策です。先生方から現場に即した的確なアドバイスをいただき、大学院の仲間と切磋琢磨しながら面接・模擬授業の練習を重ねました。数多くの対策本を読んでも分からなかったことが、「100クラブ」を通して分かりました。

教職開発講座（教職大学院）特任講師

こたに まさひこ
小谷 勝彦先生

担当教員より



「100クラブ」は、教員採用試験対策を主とした院生によるクラブです。その名称には、「教員採用試験を受験する院生が100%その目的を達成する！」という強い想いが込められています。運営は院生が行い、教職大学院の教員全員がその指導にあたります。当初は、模擬面接の場面で、ある一つの質問に対し、みんな同じような答えをするのに驚きました。原因は、対策本に書いてある模範解答をそのまま答えているからだということがわかりました。活動を重ねる中で、各々、自分の体験を通し、自分なりの根拠を基に自分の言葉で語れるような変容が見られました。効果は大きいものがあります。



発表会・報告会

年間を通じて、以下のような、院生による発表会・報告会を実施しています。

- ・学位研究報告書 研究構想発表会
- ・学位研究報告書 中間発表会
- ・学位研究報告書 発表会
- ・学校実践Ⅲ報告会
- ・学校実践Ⅳ報告会
- ・3年、4年コース実習報告会

これらの発表会・報告会は、当然のことながら自分の研究についての成果や課題を発表・報告する場ですが、特に大切にしていることがあります。それは、それまでの自分の取組を振り返り、今後の活動の改善に生かすということと、各自の研究の成果や課題を自分だけに留めずお互いに共有するということです。いずれにしても、院生にとっては大きな節目となる活動の一つです。



学位研究報告書研究構想発表会
(現職教員)



学位研究報告書中間発表会

修了生の声



奈良教育大学
附属中学校 教諭
かわはた けいこ
川畑 恵子 さん

「研究発表を活かす」

生徒指導や学級経営をする中で、近年、生徒自身が自己理解や他者との関係のとり方を学ぶ機会を設定する必要性を痛感しています。そこで、私は生徒同士で相互に人間関係を作り上げていくという「ピア・サポート」の理論と技法を教職大学院で研究しました。

大学院では1年目に理論研究を、2年目に勤務校において実践検証を行い、その研究成果を学位研究報告書発表会で報告しましたが、日本教職大学院協会シンポジウムや日本ピアサポート学会等でも発表しました。また、卒業後も研究内容を勤務校で継続的に実践し、その成果を島根県教育委員会主催の研修会、奈良県公立学校職員研修、奈良県中学校初任者研修等において発表することができました。これらの発表会でご指導をいただいた内容は、ピア・サポートのプログラムに取り入れ、学級集団づくりや対人関係の更なる改善に活かすようにしています。

院生研究室

院生研究室は教職大学院棟1階にあり、院生が自主的に部屋の使い方を決めています。教職大学院では一般の大学院と異なり、院生は、指導教員の研究室ではほとんど研究活動をしません。3年、4年コースを含む院生全員がこの部屋に集まり、自身の研鑽を深めたり、いろいろな情報を交換したりする場として活用されています。



院生の声



教育学研究科専門職
学位課程(教職大学院)
2回生
しのはら りょう
篠原 嶺 さん

院生研究室とは、教職大学院生が自学自習を行う場であり、時には自分一人で、時には仲間同士で学びを深めます。また、年齢や経験、専門とする教科が異なる院生が一緒にいるため、校種や教科の枠を越えた教職の専門性を磨くことができます。このため院生研究室は、他の部屋とは異なった独特の雰囲気を感じられます。

進路状況

社会人・ストレート院生の進路状況(現職教員を除く)

平成21年～23年度修了生のほとんどが、教員に採用されています。

平成24年6月現在の主な採用先は下記の通りです。

- ・奈良県公立小・中学校
- ・奈良県私立高等学校
- ・京都府公立高等学校
- ・大阪府公立小・中学校
- ・大阪市公立小学校
- ・和歌山県公立小学校
- ・愛知県公立小学校
- ・福岡県公立小学校
- ・神奈川県公立小学校
- ・東京都公立小学校
- ・東京都私立高等学校

Others

●スクールサポート

教育実習期間(5月～6月、10月)を除いて、大学院の講義は月曜日から木曜日に設定されています。スクールサポートは、講義のない毎週金曜日に、実習に出かけた、あるいは出かける予定の学校に入り、現場のサポートを行います。そこで学校全体の仕事や子どもたちとの関係づくりなどを、教育実習とは一味違う経験を通して学ぶことができます。

●電子ポートフォリオ

入学から修了まで、自分の学びの履歴を多様な情報様式(文字、写真、動画など)で振り返れるように、また院生間や教員と一緒に、その自分の学びを通じて考えながら真実味のある学びができるように、WWW ベースの電子ポートフォリオを活用しています。

●アセスメントガイドブック(ルーブリック含む)

各科目や実習で身に付けた力が現在どのような状況にあるのか、自己評価できるように、学びの姿を視覚化できるガイドブックを活用しています。

●カリキュラムフレームワーク

各科目がどのような力をつける科目か、各科目の関係を俯瞰できる枠組みを用意し、履修支援をしています。

●授業力到達試験

入学時点から、自分の授業力がどの程度身に付いているか、何が課題かを明確にする知識と実技を問う試験が、定期的に用意されています。



教職大学院 院長からのメッセージ



教職開発講座(教職大学院)教授
教職大学院 院長
よしだ まこと
吉田 誠 先生

教職大学院は全国で25校あり、専門性と実践力を兼ね備えた教員養成を目的とする大学院です。学校の現職教員、学部卒業後すぐに入学した学生、教員を志望する社会人が院生として共に学ぶので、教育課程や研究・指導体制等は一般の大学院とかなり異なります。

本学教職大学院に入学した院生は、修了時まで目指す教師像や解決したい課題等を教員集団と相談・決定の上、カリキュラムを確定して履修科目を決めます。院生が入学時に決めた目標獲得に向けては、大学と連携協力校（奈良県下の公立小・中学校）とが共にチームを組み、複数の教員が指導に当たります。院生は毎回の講義・演習・実習の後、目標獲得や課題解決に向けてどのような力が自分の身に付いたのかを電子ポートフォリオを活用して自己点検評価を行い、指導教員にその力が実際に獲得できたことを示します。

カリキュラムは、「共通科目」、「実践科目」、「深化を図る科目」から構成されています。特に実践科目中の学校実践Ⅰ～Ⅳは、連携協力校において1年目で実践Ⅰ～Ⅱ（授業観察4週）及びⅢ（応用実習4週）、2年目で実践Ⅳ（研究テーマに沿った総合実習4週）が必修になっており、かなり多

くの時間が当てられています。現職教員は、1年目の実践Ⅰ～Ⅲが免除されることがあり、1年目は教職大学院で、2年目は勤務校に戻って研究活動を行い（実践Ⅳ）、研究成果を自校で発表します。

このように本学教職大学院の院生は、経験豊かな教員による実践を踏まえた理論的な指導の下で、理論と実践の往還の中、2年間の学びを進めます。学びの成果は、一般大学院の修士論文にあたる学位研究報告書としてまとめ、修了となります。

最近、「大学院修了後のメリットが少ない等の事情から教職大学院の志願者が減少している」という報道がありました。確かに今は修了後のメリットは少ないですが、教員採用後には「自身に自信と誇りを持って教育活動に当たれる」という一般大学院や学部卒では得られない大きな利点があります。また、平成24年8月の中央教育審議会答申『教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について』でも、現在の学校教育に関する多くの課題に対処するために教職大学院が果たすべき重要な役割が示されています。今後、教育界に貢献する人材を輩出する場として教職大学院の役割は益々重要視されると確信しています。

平成25年度 入試情報

●二次入学試験

出願期間：平成25年1月7日（月）～11日（金）

試験日：平成25年2月10日（日）

合格発表：平成25年2月14日（木）

●個別相談会

平成24年12月26日（水）17:00～19:00[教職大学院棟1階]

●問い合わせ先

奈良教育大学入試課

〒630-8528 奈良市高畑町 TEL.0742-27-9126

ホームページ：http://www.nara-edu.ac.jp/

E-mail：nyuusi@nara-edu.ac.jp

本

ブックレット紹介

Introduction of a booklet

本書は、本学教職大学院生の4年間の学びの歩みを辿りながら、どのようなカリキュラムや指導体制の中で、教師としての力量を高めていったのかを紹介しています。このような教職大学院での学びの実際を描いた図書は、これまで出版されていませんでした。

その意味で、多くの教育関係者の皆さんに教職大学院に対する理解を深めていただき、これから本学の教職大学院に進学しようという人にとっては、進路選択の手がかりになることを期待しています。



『できる』教師への道—教職大学院生の学び—
(株式会社東山書房)





「学ぶ喜びを知り、自ら学び 持続可能な発展のための教

副学長(国際交流・地域連携担当)
プロジェクトメンバー

かとう ひさお
加藤 久雄



皆真剣! ESD 連続公開講座

はじめに

教員養成機能の高度化の推進や質の高い教育実習機会等を提供できる附属学校機能強化の推進など、大学における教員養成の抜本的な改革を実現するために、平成24年4月より、「学ぶ喜びを知り、自ら学び続ける」教員の養成に向けた持続可能な発展のための教育活性化プロジェクト(略称「学ぶ喜びプロジェクト」)が始まりました。このプロジェクトは、「1. 大学における「学ぶ喜びを知り、自ら学び続ける」教員養成・ESDの教材・カリキュラムの開発」「2. 附属学校園の「学び合い・育ち合い」機能の強化のための研究開発」「3. 教育学部と大学院教育学研究科(修士課程と専門職学位課程(教職大学院))と附属学校園の連携による教員養成機能の充実」「4. 大学と地域の連携のためのセンター校的機能の拡充」の4つのテーマを設け進めています。

ESD 連続公開講座

月1回のペースで、夕方6時から8時の2時間、地域の幼小中学高校の先生方と本学教員の2名でお話をいただき、本学学生、教員、地域の先生方が一緒になって学ぶ機会となっています。講座の後、話し合いが遅くまで続くこともあります。これまでに、以下のような12の講座が開催されました。「私の学級経営そして授業のコツ」(奈良市立都跡小学校長 植島佳子先生)、「世界遺産: 紀伊山地の霊場と参詣道の現状とボランティア」(十津川地域雇用創造協議会事務局長 北村啓司氏)、「野外活動のA-Z」(奈良県立野外活動センター 吉藤行二氏)、「森林環境教育とESD」(奈良教育大学 谷口義昭教授)、「あなたの琴線にふれるもの」(奈良市教育委員会指導主事 東畑年昭先生)、「環境と文化の表現形に関わる思考基盤」(奈良教育大学 頓宮勝教授)、「指導主事という仕事-教育行政における教員のもう一つの役割-」(奈良教育大学教職大学院 山本吉延教授)、「世界遺産を学ぶことからESDを考える」(奈良県立法隆寺国際高等学校教諭 祐岡武志先生)、「言語と文化の統合教育実践における文化的気づきに関する考察-留学生の語りから見えてきたこと-」(奈良教育大学 和泉元千春准教授)、「元気・勇気・本気 そして根気!」(奈良市立三笠中学校校長 長浜博己先生) 毎回、熱心な参加者が学内外から集まります。

参加学生の声

教科教育専攻国語教育専修1回生 こじま ゆみこ
児島 佑美子さん

私は学ぶ喜び ESD 連続公開講座を初回から欠かさず毎回受講させていただいております。毎回さまざまな分野で活躍しておられる方のESDに繋がるお話や現職で活躍しておられる先生方のお話を生の声で聞くことができ、お一人お一人が違う価値観や指導法なので学べることが多いです。第5回の講座では教員の視点ではなく指導主事からの視点でのお話を聞かせていただきました。指導主事という役割や仕事についてほとんど知らなかったし、このような視点からのお話を聞く機会はなかなか大変有意義でした。それだけでなく十津川村の道普請の方、野外活動センターの方など、それぞれが取り組んでいらっしゃるからこそ見たESDを学ぶことができ、自分の中で新たな発見をすることができました。最も心に残っているのは第4回の「あなたの琴線にふれるもの」という講座です。金子みすずについてだったのですが国語科の私としては非常に興味深く、またひとりの人物の追求からESDに迫ることができるという発見がありました。

陸前高田・ESD 研修会

9月6日から9日の日程で、陸前高田の常膳寺の仏像の調査、津波被災地を訪ねての防災教育学習を行いました。学部学生、大学院学生、教職大学院の学生の各2名計6名でチーム(Tモデル)を作り、それぞれ日頃の大学での学びの交流をすることも、目的の一つとしました。

参加学生の声

修士課程美術教育専修2回生 みやたけ あんな
宮武 杏名さん

今回の研修では、常膳寺の仏像調査を担当した。しかし、この4日間で私は仏像調査の経験を積み以上に多くのことを学んだ。それは実際に見たり聞いたり経験することに勝るものはないということであ



続ける」教員の養成に向けた 育活性化プロジェクト

る。テレビでみる被災地と目の当たりにする被災地はどこか違って見えた。調査に協力して下さった方々の中には、涙を流しながら市街を案内して下さる方がいた。私たちのために資料を用意して、時間を作って説明して下さる方がいた。なぜ見せようとしてくれるのか、なぜ語ろうとしてくれるのか。失ったものから学びを見出し、それを語りついでいく。失ったものは決して戻ることはいないけれど、確かにそこにあったことを忘れないこと、学んだことを忘れないこと、そうすることで前へと進んでいくことが出来ると感じた。被災地はまだ復興したわけではないが、人々は復興へと一步一步進んでいる。私達

は今回学んだことを陸前高田の人々に還元するのはもちろんだが、ぜひ周りの人にこの学びを伝え、私達の学びが、周りの人の新たな学びのきっかけになってくれればいいと思う。



常陸寺での仏像調査

中学校リーダー研修会

8月20日、三笠中学校のリーダー研修会に参加し、学校現場の中に身を置き、さまざまなことを学びました。

参加学生の声

専門職学位課程(教職大学院)1回生 たけだ じゅんや 竹田 隼也さん

三笠中学校リーダー研修会では生徒と話をしたり、アंकロンやハンドベルの演奏をしたりしました。この中で、私は中学生の学びたいという意欲とひとつのことを達成するための集中力に驚きました。真剣に話を聞き、私たちから何か学ぼうとしていました。また、アंकロンやハンドベルの練習では、40分という短い時間の中で、班で協力して練習していました。その結果、最後にはどの班も素晴らしい演奏ができていました。このように、中学生は学ぶ意欲にあふれていることがわかりました。このような意欲を引き出す指導ができるように、私自身も学ぶ意欲を持続けたいです。リーダー研修会では多くのことを学び、多くの人とつながることができました。研修会に時間をとっ

て下さった三笠中学校の先生方や誘って下さった先輩に感謝するとともに、今後多くの人とつながることができるようにさまざまな学びの場にかかわっていきたいです。



みんなで、アंकロンの練習

ESD子どもキャンプ

8月30日・31日、奈良市内のユネスコスクールの児童・生徒らが、大学キャンパスでテントを張り、キャンプを行いました。5月から地域の先生方、学生、本学教員が企画段階から協議を重ね、2日間のプログラム(ならまち探検、キャンプファイヤー、ESD勉強会、グループごとの映像発表会など)を作りあげました。

参加学生の声

科学情報コース物質科学専修2回生 ごとう だ しょうすけ 後藤田 洋介さん

ESD 子どもキャンプは奈良市内のユネスコスクールの児童、生徒に参加を募り、奈良教育大学を会場に開催されました。私は、企画段階から参加し、当日はキャンプリーダーとして参加しました。私がこのキャンプを通じて感じたことは、参加した子どもたちや、学生が、机の上では学ぶことのできない経験をしたということです。子どもとの触れ合いからわかることや、学生自らが企画に関わったこと、子どもたちには、持続可能な社会の観点や、自分の住んでいる町の良さ、そして仲間の良さを感じ取ってもらえたと思います。子どもたちが作った作品にもそれらがメインにありました。学生は企画段階から参加したことで、自分の考えた企画の良いところ、悪いところ



力を合わせてテント張り完了!

ろを感じたと思います。初めてのことで戸惑ったり、衝突したりしながら、良いキャンプでした。私は今



回の経験を次のキャンプに、そして、さまざまな実践に活かしていきたいと考えています。子どもたちにもっとキャンプのテーマを感じてもらうためにはどうしたら良いか、企画をさらに良くするためにはどうしたら良いかを追求し続け、自分の学びにもつなげていきたいと思いました。

附属小学校でのビオトープ作り

附属小学校のビオトープ作りに参加させていただきました。

参加学生の声

身体・表現コース保健体育専修4回生 こだま かなこ 児玉 佳菜子さん

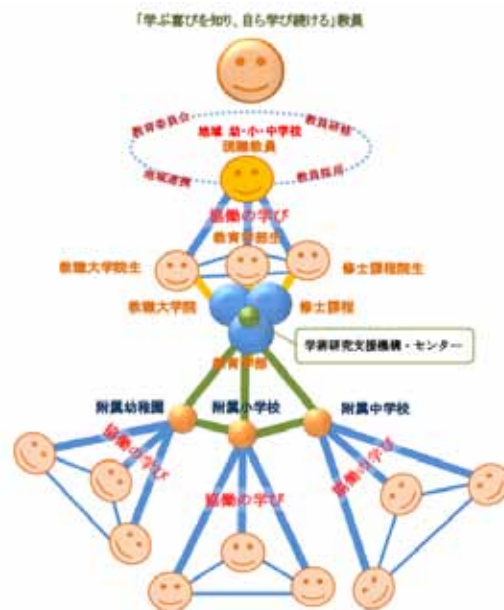
「このビオトープは自分たちがつくったんだ」「うわあ！いつのまにか芝生もできている！」そのような児童の誇りや喜びを直接、肌で感じることでできる活動でした。1日1時間程の活動の中で、つぎつぎと児童がやってきてどのくらい進んだかな？何かできることはないかな？と見にくる姿。授業中や休み時間だけでは見ることでできない姿に出会うことができ、貴重な時間を過ごすことができました。また、教師の工夫や準備の大変さを知ることができました。私が強く感じたことは、ビオトープ作りのなかで多くの児童の中に発見や気づきがあり、あらためて、児童の学びというのは授業の中だけではなくこのような活動や日常の中にあふれているのだということでした。鹿対策のために取り付けたネット、土が流れないようにつけられた芝生など、教師の工夫や少しの変化に、児童は気づき、思いをめぐらしさまざまな考えを述べていく、そのやりとりの中に学び喜びがあるのではないかと思います。

一人一人の児童の小さな気づきや少しのお手伝い、それが重なってこのビオトープ作りのなかには大きな学びや達成感が生まれました。このような小学校での実際の学びを肌で感じることで、とても良い経験になったと思います。

テトラモデル

「学ぶ喜び」プロジェクトを進める中で、皆が言い出したことがあります。「テトラモデル」ということです。学生、院生諸君が、企画の段階から教育現場で先生方と協

働する中に「学ぶ喜び」を発見し、「学び続ける」という歯車が回りだしたのです。図にすると、次のようになります。



このことについて、ESD キャンプをリードして下さった奈良市立飛鳥小学校の松浦慎先生が次のようなコメントを寄せてくださいました。

このテトラの考え方は、斬新で興味深い。なぜなら、学生・院生にとって、教育実習や座学にはない「協働による体験的な学び」があるからだ。4つの立場のどれかにずっとベースがあるというのではなく、「どれも頂点になり得る」という考え方だ。中心にいる子どもたちのために、共に協働しながら一つのことを創っていく。その顕著な例が、ESD 子どもキャンプであろう。教師が子どもたちの実態を踏まえて、プログラムの骨組みを企画する。学生・院生は企画・運営の手伝いをしながら、子どもたちと一緒に行動し、生活をサポートする。大学の先生方は全体を見通し、施設との交渉など全面的なバックアップを行ったり、時には前に立ち子どもたちに大事なことを伝えたりする。それぞれの持ち味が発揮された取組である。企画段階から共に創ることにより、お互いが学びになり、刺激になる。結果として、できあがったものは、子どものさらなる学びにつながっていく。誰にとっても推進力のある「本当の学び」がここにある。このテトラの考え方は今後教師になっていく学生・院生はもちろん、教師を続けていく我々にとっても実に有益な取組であると思う。

平成24年4月から始まった本学の「学ぶ喜びプロジェクト」の活動は、これからも続きます。教員養成の高度化、学ぶ喜び、学び続けるといったキーワードに、昨年から自発的、内発的にスタートした活動に是非ご参加ください。プロジェクトについての詳しい内容、今後のスケジュールなどは、ホームページをご覧ください。

<http://mailsrv.nara-edu.ac.jp/~katohs/manabu/manabu.htm>





ラボ・レター

— 学生による研究室紹介 —
 学校教育教員養成課程 教育発達専攻
 幼年教育専修
 (改組前: 学校教育教員養成課程
 教育・発達基礎コース 幼年教育専修)

幼年教育
 ほりこしのりか
掘越 紀香研究室



学校教育教員養成課程
 教育・発達基礎コース 4回生

たまち さちこ
田町 幸子さん

私立四天王寺高等学校出身

きむら みゆき

木村 美由紀さん

奈良県立畹傍高等学校出身

かまだ たいが
鎌田 大雅さん

奈良県立郡山高等学校出身



掘越研究室の紹介

幼年教育専修の学生は、3回生の教育実習前に所属する研究室が決まります。現在4回生は、女性2名、男性1名の計3名が所属し、発言がしやすく和気あいあいと温かい雰囲気なのか、それぞれの研究を進めています。

掘越先生は、2年前に奈良教育大学に赴任されました。卒業論文を書き進めていくなかで、悩んだり、不安になったりすることもあります。しかし、掘越先生は私たち学生の思いや考えをくみ取った上で適切な指導をして下さり、将来自分が保育者になったときに生かすことのできる卒業論文を目指し、切磋琢磨して頑張っています。

また、掘越研究室では、卒業論文だけでなく、継続的に保育観察をしたり、さまざまな園の公開研究会に参加したり、自分たちの作ったパネルシアターを幼稚園で実践したりなど、理論に加えて貴重な体験をすることができます。

保育観察から子どもをみる眼を養う

現在、掘越先生も含め、研究室の全員が毎週奈良教育大学附属幼稚園で保育観察を行っています。最初は卒業論文を書くために保育を観察していましたが、観察を重ねるなかで、子どもをみる眼を養うことの大切さに気付きました。“子どもをみる眼”とは子どもの行動をその子の表現として肯定的にとらえて、子どもの思いを読み取ろうとする力であると私たちは考えています。

これからも保育観察を通して“子どもをみる眼”を養い、将来保育者になったときに、子どもは何に興味を持っているのか、何を楽しんでいるのかを敏感に感じとることができるようになりたいです。そして、常に子どもの興味・関心にアンテナを張り巡らせて、子どもの目線に立って考え、子どもの成長を丁寧にとらえられる保育者になることを目指します。

ここが魅力! 掘越研究室!

掘越研究室では、奈良市内の幼稚園だけでなく、奈良県内や徳島県、広島県など、特色のある保育がなされている園まで足を運び、

実際に自分の目で
 保育をみる機会が多

くあります。保育者として現場に出てからはこのような機会はなかなかありません。さまざまに創意工夫されている魅力的な保育をみることで、私たち自身の保育の幅を広げたいと思っています。

また、大学の学びを実践する機会としては、授業の一環でパネルシアターを作り、幼稚園の子どもたちの前で実践しました。子どもたちとやりとりしながら進める難しさを感じたり、予想外の子どもたちの反応に戸惑ったりすることもありましたが、何よりも子どもたちがお話や歌を楽しんでいることがうれしかったです。この実践から、教材は作るだけでなく、子どもたちがいることを想定して練習を積み、自分のものにするすることで、子どもたちも楽しめるのだということを再確認しました。



このように掘越研究室では、保育現場でのさまざまな体験を通して、子どもの面白さや保育の奥深さなどを学びながら卒業研究を進め、ときどきは美味しいもの好きの先生と和みつつ、研究室ライフを送っています。

卒業論文のテーマ

● 砂場遊びの持つ魅力

3～5歳児の子どもたちが砂場で遊ぶ姿と保育者の援助を観察し、子どもは何を楽しんでいるのかをとらえて砂場の魅力を検討するとともに、その魅力をより生かすために保育者は何ができるのか、環境構成も含めて検討する。

● 幼稚園における片づけと遊びとのつながり

片づけ場面での保育者の援助と子どもの行動に着目して検討することに加えて、遊びから片付けへ、片付けから次の活動へとスムーズに移行するために、保育者はどのような行動や声かけをしているのか、子どもたちとの相互作用も含めて検討する。

● 幼児と自然環境とのかかわり

保育観察から、子どもたちが季節に応じて変化する自然環境とどのように出会い、かかわっているのかを検討するとともに、園ごとに異なる自然環境を、保育のなかで最大限に生かすためには、保育者としてどのような工夫ができるのかについても検討する。

Student's Voice

私は、「砂場遊びの持つ魅力」について研究しています。毎週幼稚園へ観察に行き、砂場で遊ぶ子どもは何を楽しんでいるのか、保育者は遊びの展開に応じてどのように援助しているのか、砂場にどのような道具が用意されているかetc.について記録しています。

砂場はほとんどの園にあります。しかし、当たり前にあるものとしてとらえるのではなく、砂場の持つ魅力を再認識し、砂場遊びをより楽しくするために保育者として何ができるのか、探っていきたいと思っています。



学校教育教員養成課程
 教育・発達基礎コース 4回生

たまち さちこ
田町 幸子さん

私立四天王寺高等学校出身



クローズアップ

本学教員の研究を
詳しく紹介

いじめ問題の解決にお

プロローグ

今、いじめ問題は、わが国の学校教育現場で最も深刻な問題となっています。私はこれまで、いじめ問題の解決策を求め、学校教育の視点から実践研究を深めてきました。

まず、いじめ研究を始めるきっかけとなった実践研究を紹介します。

小学校教育現場で実践した「いじめ克服への取り組み」

紙数の関係で詳細は拙著^(※1)に譲りますが、「いじめ克服への取り組み—学年教師による心理劇活動を通して—」の実践です。

その当時、私は新構想大学院（開学2年目の兵庫教育大学）で、臨床心理学を専攻し、登校拒否児の遊戯治療に関する理論と実際を佐藤修策先生（後の兵庫教育大学長）から学びました。その後、現場復帰したのですが、昭和60年当時、いじめ問題が全国的に起こっていました。いわゆるいじめの第1波と呼ばれたころでした。勤務校でもいじめの問題が出始めていました。そこで私は、いじめの苦しみを中心に分かれ、いじめに立ち向かう力を育てるため、教師によるいじめの心理劇（サイコドラマ）を構想しました。対象は、250名の小学校5年生全員です。私は、サイコドラマという監督兼ファシリテーター（進行役）をつとめました。いじめっ子、いじめられっ子、周りの子ども（いじめに加担する子、見て見ぬふりをしてしまう子、転校して間もない子）役には私以外の学年教師がなり、役割は相談して決めました。日常的にありそうな

いじめの場面を2つつくり、場面のやりとりは全て先生方の即興で実施しました。リアリティ感のあるいじめのロールプレイに、子どもたちは日頃の自分の行動と重ね合わせて見ていました。はじめは何が起こるのだろうかとびっくりに表情で、ワーワー言いながら見入っていました。

演技後、私は、どういう気持ちでそのような行為をしたのかインタビューしました。いわゆるシェアリング（振り返り）です。これはサイコドラマの中核をなす重要な部分です。当時、カウンセリングといえは個別の相談が中心だったのですが、学校教育現場の授業に生かせるよう工夫しました。

その後、本実践は、当時学校長であった福呂昌信先生の強い薦めで論文応募し、第34回読売教育賞児童生徒指導部門最優秀賞に輝くという栄誉を得ました。読売新聞本社（東京）で開催された表彰式では、審査委員長であった波多野完治先生（児童心理学者、お茶の水女子大学名誉教授）から「最も今日的な課題であるいじめ問題の解決に向けて、一つの処方箋を示す学校現場ならではの実践である」とお褒めの言葉をいただきました。まさに学年教師6名がチームで得た賞でした。賞状には「わが国の教育に貢献するところ多大」という文字が光っていました。もちろんいじめられている子の表情は明るくなり、いじめはなくなりました。昨日のことにように思い出します。これ以来私はいじめ問題に打ち込むようになりました。

この実践を振り返ると、「観念的理解では実際の態度、行動まで変える力はない。心情的理解が成立したときに子ども自身が自分の行いを変えるのである。（三宮 1990）」という認知心理学の知見と符合していることが分かります。



いて、いま学校で必要なことは何か？

わが国のいじめの特徴について、 これまでに明らかとなった 知見を紹介します

主に次の4点です。

- ①同じ学級のなかで起こりやすい
- ②長期間、しつこくいじめられやすい
- ③いじめっ子といじめられっ子との
人間関係の結びつきが強い
- ④学年が上がるとともに、傍観者は
増え続け、仲裁者は減り続ける

これらの知見は、森田ら（2001）によるいじめの国際比較研究から得られたものです。しかも、いじめはどの国でも起こっていることが明らかとなりました。

特に、このなかで気がかりなのは④番目です。

（図1）同調査から少し年月が経っていますが、この現況は今もほとんど変わっていません。不正義ないじめに立ち向か

い、子どもたち自身でいじめを解決する力を育てていくことが緊急の課題です。わが国の子どもたちの現状を見たとき、これからの社会を担う存在となれるのか心許ない気持ちがしてなりません。オランダやイギリスでは、中学校期の難しい時期に、傍観者は下げ止まり、仲裁者は上昇に転じています。イギリスではシティズンシップ教育を学校教育に導入し、正義を実現するため義務と責任をどのように果たしていくか、具体的に教えています。そのひとつが、ピア・サポート（子ども同士による助け合い活動）の導入です。ま



図1 各国の仲裁者と傍観者の比率

た子ども同士によるトラブル解決のスキルとして、ピア・メディエーション（子ども同士による調停）の手法も学校教育に導入しています。

次に、いじめの 介入視点について まとめて示します

主に次の5点です。

- ①いじめは、子どもの心に
甚大な影響を及ぼす

いじめは、心的外傷を引き起こす要因となります。この理解が乏しいと、問題解決への強い動機づけにはなりません。いじめは虐待と同じく長期反復性の外傷性障害を受けたのと同じです。ノルウェーの犯罪社会学者オルヴェウスは、いじめは虐待の一種で「同輩による虐待である」と述べています。

プロフィール

教職開発講座

いけ じま とく ひろ
教授 池島 徳大

専門は、いじめ・不登校などの学校教育臨床、生徒指導、学校カウンセリング。
兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科博士課程単位取得退学。
博士（学校教育学）、臨床心理士、学校心理士。
奈良県公立小学校、奈良県立教育研究所、国立教育会館学校教育研修所（現、独立行政法人教員研修センター）等を経て、奈良教育大学教育学部附属教育実践総合センター助教授。現在、同大学院教育学研究科専門職学位課程（教職大学院）教授。
公立小学校教諭時代に、「いじめ克服への取り組み—学年教師による心理劇活動を通して—」で、第34回読売教育賞児童生徒指導部門最優秀賞受賞（昭和60年7月）。
現在、いじめ問題の解決に向けて、予防的・開発的生徒指導の視点に立つ、子ども同士の人間関係の形成を図るピア・サポート及びピア・メディエーション（仲間による調停）の学校教育への導入に関して、積極的に実践研究を行っている。

〈著書〉

- （※1）単 著 「クラス担任によるいじめ解決への教育的支援」日本教育新聞社 1997
（※2）監修・著 「ピア・サポートによるトラブル・けんか解決法! 指導用ビデオと指導案ですぐできる
ピア・メディエーションとクラスづくり」ほんの森出版 2011 他



昭和60年6月25日
（読売新聞奈良版）



「クラス担任によるいじめ
解決への教育的支援」
（日本教育新聞社）



「ピア・サポートによる
トラブル・けんか解決法!」
（ほんの森出版）





②いじめは被害者の隠蔽心理により、見えにくくなる

いじめられている子は、人前で楽しく遊んでいるように振る舞い、いじめの対応を難しくしている面がみられます。中井(1996)は「そのときの子どもの眼は笑っておらず、遊びに欠かせないダイナミックな揺らぎがない」と述べています。いじめは、よほどめざとい大人の眼にしか留まらないのです。子どもの様子を鋭敏にキャッチできる臨床的センスが必要です。では、臨床的センスを身につけるにはどうすればよいのでしょうか。次の視点が参考になると思います。

③ヴァルネラビリティ (vulnerability) の着目と支援

聞き慣れない言葉ですが、「攻撃誘発性」と訳します。簡単にいうと「いじめられやすさ」のことです。

例えば、転校生や障害のある子ども、協調性の乏しい子などは、異質な存在としていじめの対象となりやすい傾向性をもっています。しかしそのような傾向があるからといって、いじめられて当然であるということではありません。ここは、注意が必要なところです。仮に、いじめられている子どもに問題があるとするならば、それは、その子どもの個別の支援課題だととらえて対応すべきです。「あなたにもいじめられる原因がある。いじめられても仕方がない」などの態度で臨むと、いじめられている子どもは自分から苦しい胸のうちを打ち明けることをしなくなります。そのような態度は、結果的にいじめを助長し、いじめを許すことにつながりかねません。子どもと接するには、「いじめられやすさ」をもっているか否かの視点から支援していくことが重要です。

④学級集団に生じる「ピア・プレッシャー」への配慮と対応

現代社会においては、人々の人間関係は希薄な傾向にあります。子どもたちも例外ではありません。関係が希薄なため、級友のちょっとした言動に傷つき、強い者に巻かれてしまう状況がみられます。これをピア・プレッシャー(仲間の同調圧力)と呼んでいます。いじめ予防の観点から、子ども相互の人間関係、絆を深める取り組みが是非とも必要です。

⑤共同性意識を育てるピア・サポート及びピア・メディエーションの導入

いじめの最大の防御は、子ども相互の人間関係の形成と良質なコミュニケーションの育成を図ることです。すなわち予防的対応を早期に進めることです。関係ができれば、絆が深まり、お互いに許しあうなど寛容な関係が生まれます。また、学級に共同性意識が芽生えます。その意味でピア・サポート活動の導入は非常に有効です。しかし、学校ではもめごと・トラブルは日常的に起こっています。関係が深まると必然的に衝突やもめごとが起こるのも事実です。深刻な問題に発展する前に、早期にその対応方法を知っておくことは有益です。その指導法のひとつとして、ピア・メディエーションがあります。詳細は紙数の関係で述べませんが、詳細は昨年発刊した書籍^(※2)を参考にしてください。ゼミや授業等では、ピア・サポートやピア・メディエーションに関するトレーニング等を行い、また学校における日常的な問題への対応を検討しています。なお、最近、加害者と周りの子どもたちとの関係の修復(関係修復的正義と呼びます)を図っていくには、どのような手だてが必要かについても研究を進めています。わが国の教育を変える意気込みで取り組んでいます。



—参考・引用文献—

森田洋司ら 2001 いじめの国際比較研究 —日本・イギリス・オランダ・ノルウェーの調査分析— 金子書房
中井久夫 1996 いじめとは何か 「仏教」No.37 法蔵館
三宮真智子 1990 認知心理学の視点から 鳴門教育大学学校教育研究センター紀要4





見渡者

見わたせば

春日の野辺に

春日之野邊尔

霞立ち

咲きにはへるは

桜花かも

開艶者

櫻花鴨

(『万葉集』 卷十 一八七二 作者未詳)

奈良県教育委員会事務局
学校教育課 指導主事

ひがしはた ともこ
東 智子さん

(平成2年3月 奈良教育大学
中学校教員養成課程 国語専攻 卒業
平成16年3月 奈良教育大学大学院
教育学研究科 国語教育専修 修了)

現在、私が勤務する奈良県庁のすぐそば（奈良県庁東交差点北東）に、この歌の歌碑があります。いつからここにあったのか、この歌碑の存在に気付いたのはつい最近です。大学までこの地で暮らし、東大寺や興福寺、新薬師寺、奈良公園などを身近に過ごしてきた私には、この小さな出来事が新鮮で、改めて郷土を発見する機会となりました。

私は平成2年に奈良教育大学を卒業し、県内のへき地の中学校に赴任しました。大学では、詩人西脇順三郎『Ambarvalia』を卒業論文のテーマに選び、大河原忠蔵先生のご指導を仰ぎました。詩を素材に「こんな授業をしたい」という思いをあたため、最初に赴任した中学校では、さまざまなことにチャレンジさせていただきました。その後、奈良市内の中学校に異動し、数年を過ごす中、もう一度、国語科教員としての力量を高めたいと、平成14年に奈良教育大学大学院に現職教員として長期研修に行かせていただくことになりました。大学時代を知ってくださっている先生方にあたたく迎えていただきながら、棚橋尚子先生や松川利広先生にご指導いただいたことは、現在に至るまで私の財産となっています。学校をめぐるのはさまざまな課題がありますが、私は、自分の授業力を磨き、魅力ある国語の授業づくりをすることで、生徒理解を深め、生徒の言葉の力を高め、豊かな感性を育てたいと思っています。社会はめまぐるしく変化しています。よく、不

易と流行といわれますが、不易に胡座をかくことを戒めつつ、時代の要請に応える教育の在り方を考える必要があると思っています。

奈良県は、地域の教育力を高め、地域ぐるみで奈良県の子どもの育ちを見守り、教育課題の解決につなげようとしています。保護者や地域の方々が学校の教育活動に参画する取組も増えてきました。同時に、子どもたちが郷土を知ることや、郷土のよさを実感し愛着をもつことも大切なのではないかと思います。前掲した歌碑など、郷土を再発見する一つの材料となるでしょう。国語科教員としては、郷土の再発見に『万葉集』や郷土に伝わる昔話・伝承を取り上げることは、探究心が大いに刺激されるところです。



奈教のひみつ

学生広報スタッフ
“なっきょん's CLUB”
企画

なっきょん食堂

学内施設紹介 ～食堂・購買書籍編～

正門から右へ進むと、赤レンガが広がる広場（通称：アゴラ）の奥に、食堂と購買書籍があります。これらは、学生や教職員らが出資する奈良教育大学生活協同組合が運営しており、大学内に欠かせない、食堂・購買・書籍のお店を基本に、大学生活をサポートしています。そんな食堂・購買書籍には、どんなひみつがあるのでしょうか。

いつもお世話になっている生協。
どんなひみつがあるか楽しみ。
Let's go!



学校教育教員養成課程理数・生活科学コース
2回生
おくだ ゆうき
奥田 祐樹さん（奈良市立一条高等学校出身）

学校教育教員養成課程理数・生活科学コース 2回生
ひろおか なお
平岡 奈央さん（広島県立広島観音高等学校出身）

学生会館との間の広場
（通称アゴラ）



1日の平均利用者数はおよそ365名（4～7月）。現在7名のスタッフで対応しているよ。学生の憩いの場となるように、というスタッフの皆さんの気配りがうれしいね。



自分の意見で生協がより使いやすくなるのは、うれしいね。みんなも、何か意見や要望があれば、ひとことカードに書いて提出してね。



建物へ入ってすぐのところに、ひとことカードが掲示されているね。意見や要望などに対して、きちんと回答が書かれているよ。

購買書籍



大学オリジナルグッズ販売中。
おなじみ“なっきょん”グッズ
いろいろあるよ。ここでしか
買えない逸品!!

手作りのお弁当も
種類が豊富。時間がない
ときでも安心! どれ
を買おうか迷っちゃい
ます。



こんなに
たくさん!



1日平均の利用者数は
約730名（4～7月）。現在6名の
スタッフが働いています。気持ち
よく来店していただき、学生や教
職員に親しんでいただけるよう心
がけています。
また、授業に必要な商品の品揃え
にこだわり、約500アイテムを
用意しています。



教科書など、書籍は
10%引きで買える
ので助かります。教
育大生必携の学習
指導要領も売って
いるよ。

大学生活に必要なもの
は何でも揃うよ。
共済や自動車学校の
申込みまでできるの
で、とても便利!





サラダバーやおひたしなど、野菜メニューも充実。一人暮らしでなかなか野菜を食べられない人も、食堂で気軽に食べられるよ。

衛生・品質・心地良い接客対応がこだわりです。食材の適温管理にこだわって、温かいものは温かく、冷たいものは冷たい温度で提供しています。混雑しますが、お待たせしないように心掛けています！

1日に使用する食材は、麺約60食、ご飯45kg、味噌汁110杯、揚げ物約150人分、サラダバーや付け合わせのキャベツ5kgだって…。すごい。

便利だね〜！

2009年にリニューアル。きれいになって、席数も増え、以前よりゆったりくつろげるようになったんだって。

定期的にいろいろなフェアをやっているよ。季節のメニューやご当地メニューを食べることができるので、いつも楽しみ！



支払いは、チャージ式のなっきょん CO-OP カードでキャッシュレス



生協 専務理事より



生協は組合員の出資により成り立っています。職員スタッフ、生協学生委員会と共に、より学生、教職員の皆さんにとって必要なものを品揃えできるよう頑張っていきます。また大学生活が楽しく、より健康で安全な生活を送っていただけるように、さまざまな企画も実施していきます。

奈良教育大学生生活協同組合
崎濱 誠 専務理事

生協学生委員会

食堂の隅に「生協学生委員会 BOX」というドアがあるよ。生協学生委員会は、大学生活をよりよくするために、さまざまな取組を行っている学生団体だよ。部屋の中では、日々メンバーが和気あいあいと活動しているよ。



【こんな取組をしています】

- ・**新入生歓迎企画**
新入生の友達作りや一人暮らしの支援をしています。
- ・**食生活相談会**
健康状態や食生活を見直してもらおうきっかけになればと企画しています。
- ・**ひとことカード**
生協利用者の意見や要望を生協の運営に反映させています。
- ・**KARIN**
大学生活や食堂、購買書籍に関する情報を伝える機関紙を作成しています。



留学生 レポート



- ①ロック・ヘイブン大学
- ②セントラルミシガン大学
- ③嶺南大学校
- ④公州大学校
- ⑤光州教育大学校
- ⑥西安外国語大学
- ⑦華東師範大学
- ⑧インドネシア教育大学
- ⑨ハイデルベルク大学
- ⑩プカレスト大学
- ⑪リヨン第三大学

Interviewee



言語・社会コース
英語・国際理解教育専修 4回生
京都府立鳥羽高等学校

なりひろ ちえ
成広 千恵さん

アメリカ/ロック・ヘイブン大学 (留学期間 2011.8 ~ 2012.5)



親友との3ショット



大学近くの川辺の公園にて

⊕ 留学をしようと思ったきっかけは。

高校時代に英語を話して友達ができる楽しさを知り、大学生活で一番やりたいと思っていたことが、留学でした。奈良教育大学は、日本人留学生が少ない所へ長期留学が可能で、受験する時から、留学に行くことを心に決めていました。

⊕ 留学する前にどれくらい語学の勉強をしていましたか。

大学の授業にしっかりと取り組み、自主学習としてリスニング教材を日常的に聞いたり、読書をしたり、英検やTOEIC、TOEFLを定期的に受けていたりして実力を少しずつでも伸ばすようにしました。

⊕ 留学先ではどのような1日を過ごしていましたか。

夕方4時ごろまで1日3~4個の授業を受けて、昼食と夕食を友達と学食で食べました。大学のジムが利用できたので、気分転換によく通っていました。大学は自然に囲まれていて、町も小さくて可愛らしいところなので、散歩は日常茶飯事でした。地元の友達とドライブに出掛けるのが一番好きでした。寮では友達と真夜中まで話すのも楽しみのひとつでした。

⊕ 留学生活で一番驚いたことは何ですか。

一番驚いたことは、アメリカ人の他人との挨拶文化です。皆がそうとは言わないにしても、くしゃみをした相手に“Bless you.”と声をかけること、目が合えば笑顔で“Hi.”と言うこと、お店のレジで“How are you?” - “Good.”、また“Thank you”や“Have a nice day/ weekend.”と言葉をかける文化は、日本との大きな違いです。日本にはないフレンドリーさを感じました。

⊕ 留学中一番うれしかったこと、逆に大変だったことは何ですか。

国による文化や価値観の違いはもちろんありますが、人がそれぞれ違っていることは世界共通です。その上で、私を一人の人間として見てくれる、大切に思ってくれる友達に出会えたことが一番うれしかったです。大変だったことは、ネイティブスピーカーの輪に入っていくと、どうしても聞き取れない会話や分からないジョークがあること。また、日本人の「空気を読む」や「気を効かす」ということからの言動が、思っていることをはっきり伝える文化にとっては、時に積極性に欠けて映ってしまったことです。

⊕ 留学体験をどのようにいかしていきたいと思いますか。

自分の人生の中でキーパーソンとなるだろう親友たちと、つながりを大切にしていきたいと思います。また、教育現場で、英語学習者として生徒の見本となり、指導していきたいと思います。

⊕ 在学生、高校生の皆さんに一言。

留学は「何のために行くのか、何を学ぶのか」というのはもちろん大切な問いかもしれませんが、少しでも興味があれば留学してください。自分の中で目標があれば頑張れます。辛いことがあっても最後にはかけがえのない時間になると思います。ぜひ、心の中に抱くワクワク感を大切にチャレンジしてください。本当に楽しかったですよ!



学期末に大学の国際交流イベントで友達と





ロック・ヘイブン大学 (アメリカ)

本学の国際交流協定校の一つであるロック・ヘイブン大学 (1986年7月交流協定締結) は、ペンシルバニア州にある小規模大学です。教育者育成に関して有名で、少人数制で教職員と学生との距離が近く、質の高い教育が提供されています。また、世界各国からの留学生が多く学んでいます。大学周辺は大

自然に囲まれており、週末にアウトドアなどを楽しむのにぴったりの立地です。

今回は、本学からロック・ヘイブン大学へ留学していた成広千恵さんと、本学に留学していたKEEN Timothy Charlesさんに話を聞きました。



平城京跡大極殿前で



留学生の友達と大阪城で

⬆ 留学をしようと思ったきっかけは。

留学すると決める前に全然外国に行ったことがなかったので、大学に入った時に、機会があったら留学しようと思っていました。日本を選んだ理由は、アメリカと全然違う文化や生活の仕方がありそうだったからです。

⬆ 留学する前にどのぐらい日本語を勉強していましたか。

実は、日本に来る前に、多分「こんにちは、さようなら、ありがと」しか分かりませんでした。

⬆ 奈良教育大学の学生としてどのような1日を過ごしていましたか。

普通に授業の後学生食堂で留学生や日本人の友達と一緒にご飯を食べたり、おしゃべりしたりしていました。時間があれば、友達とカラオケや奈良公園や寮で楽しみました。

⬆ 留学生活で一番驚いたことは何ですか。

日本に留学している間に、伝統的なことと現代的なことが同時にあるのは本当にびっくりしました。たとえば、色々な昔のことを守るための祭りです。そのような祭りを見に行くのと、すごく素晴らしくて、「やっぱり日本にいる」という気持ちになりました。アメリカでは、伝統的な祭りがほとんどないので本当にうれしかったです。

⬆ 留学中一番うれしかったことは何ですか。

たくさん素晴らしい思い出があったから一番うれしかったことをはっきり言いにくいですが、やさしい友達と日本的な所に行くときいつも幸せでした。

⬆ 留学体験をどのように生かしていきたいと思いますか。

この経験で私は本当に変わったと思いますから、帰国したら、迷っている人達に「留学の体験は留学中だけでなく人生の宝物だ」と説得します。また、友達や家族や知らない人達に日本にある素晴らしいことを絶対に伝えたいです。

⬆ 日本の大学生、高校生の皆さんに一言。

留学しようかなと考えていたら、絶対あきらめないで留学できるまでがんばってください。怖そうでも、本当にがんばったら、すぐに外国語を話したり、国際的な友達を作ったり、素敵なところに旅行したりすることができます！



正月に大神神社の繞道祭に参加しました



★
★
★
キャンパスで輝く学生を紹介

キラリ 奈教生



制作に励む柳澤さん



受賞作品と共に

仲間と共に地道な努力で書道展大賞受賞

2012年8月、学生書道のグランプリを決める「第17回全日本高校・大学生書道展」の審査結果が発表され、応募数11,056点のうちの51点に与えられるその最高賞である書道展大賞に、本学から2名が入賞しました。また、書道展賞及び優秀賞にも多数選ばれたり、大学として優秀校（第3位）に選ばれたりするなど、日頃の成果が存分に発揮された結果となりました。今回は、大賞を受賞した柳澤美希さんに話を聞きました。

地道な努力が受賞につながる

今回で2度目の大賞受賞となる柳澤さん。前回大賞を受賞した学部3回生のときに比べて、気持ちに少し違いがあったようです。「4回生のときに受賞できず、3回生の時はまぐれで受賞できたのかと考えていました。今回2度目の大賞をいただくことができ、まぐれではなく自分の努力で勝ち取ることができたのだと、本当にうれしく思いました。」と素直な気持ちを話してくれました。

今回の制作期間はおよそ2カ月と少し。学部生の時のように大学に泊まり込んで徹夜するようなことはなく、また、授業とは全く別の取組として制作するため、早朝や授業の合間、授業後など限られた時間の中で工夫しながらの制作となりました。同じ作品を同じ紙に何度も何度も練習し、何十枚も清書します。しかし、ただ数をこなせば良いという訳ではありません。今回、作品を制作するにあたって、柳澤さんが指導教員の吉川美恵子教授から指摘を受けたことは、インパクトや思い切りが足りないということでした。どのようにすればその課題をクリアすることができるのか。日々悩みながら作品を書き続けました。なかなか思うように書けない日が続きましたが、最後には、上手く書こうとするのではなく、気持ちを込めて書くということを意識して書くように心掛け、無事作品を仕上げることができました。そんな地道な努力が、今回の受賞につながっているのです。

奈良教育大学で書道を学ぶ

「奈良教育大学は、書道の実技や理論など幅広い分野の第一線

で活躍する先生方がおられ、卒業論文や制作において、とても熱心に指導していただけます。教員を目指す私にとって、実技だけでなく理論や教育についても十分に学ぶことができる環境は、とても力になります。これは、奈良教育大学のすばみだだと思います。また、同じ分野を専門とする高レベルの院生が研究室に集まっていて、切磋琢磨しながら制作することで良い作品が生まれます。ライバルであるけれども、良い仲間です。さらに、私は『かな』の研究室に所属し、『かな』を専門としていますが、書道展には、漢字や篆刻の作品も出品しています。これは、奈良教育大学書道科の方針によるもので、自分の専門以外の分野にも幅広く挑戦することが求められます。このように、教員から、そして仲間から刺激を受け、自分を高めることができる環境が整っています。」奈良教育大学で書道を学ぶことについて、柳澤さんはこう話してくれました。

書道を通じて得られた仲間

小学生の時から書道を続けている柳澤さんですが、高校生までと大学入学後で大きな変化があったと言います。それは、大学入学によって、書道という同じものに打ち込む仲間に出会い、皆で共に頑張るという環境に身を置くことができたということです。学部生のときには、皆で泊まり込んで徹夜で作品を制作したこともあり、なかなか1人ではできないことも、仲間と一緒にならでできるということを実感しているそうです。

知識や技術以外のことも伝えたい

最後に、今後の目標を聞きました。「教員になって書道を教えたいと考えています。奈良教育大学で学んだ知識や技術を教えるのはもちろんですが、それ以外にも、仲間と共に頑張る楽しさや喜び、そして頑張れば結果が出るということなど、授業以外で学んださまざまなことを伝えていきたいと思います。」希望に満ちた顔で、話してくれました。



ブカツ魂！

奈良教育大学には、文化会所属13団体、体育会所属27団体の課外活動団体があり、多くの学生が仲間とともに活動しています。ここでは、そんな課外活動を紹介します。今回は、硬式野球部です。

文化会

- ギターマンドリンクラブ
- ウインドアンサンブル
- 軽音楽部
- 華道部
- 茶道部
- 合唱団コールグレイス
- 劇団キラキラ座
- (障がい者問題研究会) すぎのこ
- 書芸部
- 漫画研究会
- 歴史研究会
- 舞台工房KATE
- 地歌箏曲部

体育会

- 合気道部
- 弓道部
- 剣道部
- 男子硬式テニス部
- 女子硬式テニス部
- 硬式野球部
- 男子サッカー部
- 女子サッカー部
- 準硬式野球部
- 少林寺拳法部
- 水泳部
- 創作ダンス部
- 男女ソフトテニス部
- 男子ソフトボール部
- 女子ソフトボール部
- 卓球部
- 男子バスケットボール部
- 女子バスケットボール部
- バドミントン部
- 男子バレーボール部
- 女子バレーボール部
- 男子ハンドボール部
- 女子ハンドボール部
- ラグビー部
- ワンダーフォーゲル部
- 陸上競技部
- 柔道部

pick up

体育会 硬式野球部 部員数37名

1969年から近畿学生野球連盟に所属。4回生6人、3回生9人、2回生12人、1回生10人の計37人で活動しています。月、水、木、土の練習に加え、土日祝日はオープン戦を行っています。近畿学生野球連盟の春、秋のリーグ戦、新人戦、奈良県知事杯、近畿地区国立大学体育大会(近国体)に出場しています。今年の近国体では11年ぶりに優勝しました。

1部復帰へ



身体・表現コース
保健体育専修 3回生
大阪府立天王寺高等学校出身
硬式野球部主務
かわしま ひろゆき
河島 紘之 三塁手

硬式野球部は、近畿学生野球連盟1部復帰を目標とし、日々練習に励んでいます。

指導者の方が不在のため、主将の井川悠、副主将の小谷英輝を中心とし、練習メニューを自分達で考えています。現在のチームでは、話し合うことを大切に、練習前などに、自分の意見や他の部員の改善点などを指摘し合うようにし、意識を高めて練習に臨んでいます。また、将来スポーツメンタルトレーニング指導士を目指す村上弘明が定期的にメンタルトレーニングを開催してくれ、部員全員で

取り組んでいます。練習は1日3時間半～5時間。授業前に朝練を自主的に、21時頃まで自主練習を行う部員もいます。

オープン戦では、格上の大学、全国レベルの社会人チームなどと試合を重ねたり、スピーディーでかつ無駄なミスをなくすよう心がけ、全力疾走する「2時間ゲーム」を行ったり、打順や試合の流れを意識した「打席での役割」をチームで意識したゲームを行ったりしてきました。

格上のチームに何度も勝利し、良い流れで挑んだ第50回近国体では、初戦で弘中翔太の無四球完封により大阪教育大学に4-0で勝利、準決勝は神戸大学に白井晶浩のサヨナラヒットにより6-5で



勝利、決勝は滋賀大学に3-2で勝利し、11年ぶり4度目の優勝を果たしました。幹事校ということで、朝早くから、自分達の試合がない日でも、部員、マネージャーが運営面での仕事も行い、まさに部員全員で勝ち取った優勝でした。

9月から10月にかけて行われている秋季リーグでは、今まで中心となってきた3回生が教育実習で抜けるため、ベストメンバーで戦うことはできませんが、部員全員が一丸となって、戦いたいと思います。

また、ホームページも随時更新しておりますのでぜひご覧ください。

活躍する奈教生

文化系

書道科

- ◆ 第17回全日本高校・大学生書道展 団体賞 大学の部 第3位(優秀校)

柳澤 美希さん(かな 大学院 1回生)

- ◆ 第17回全日本高校・大学生書道展 個人賞 全日本高校・大学生書道展大賞

若森 達哉さん(漢字 教育学部 3回生)

- ◆ 第17回全日本高校・大学生書道展 個人賞 全日本高校・大学生書道展大賞

体育系

硬式野球部

- ◆ 第50回近畿地区国立大学体育大会 優勝
- 細田 一智さん
- ◆ 近畿学生野球連盟春季リーグ戦(Ⅱ部) ベストナイン(捕手)

男子ハンドボール部

- ◆ 第50回近畿地区国立大学体育大会 準優勝

女子ハンドボール部

- ◆ 第50回近畿地区国立大学体育大会 第3位

ソフトテニス部

- ◆ 第50回近畿地区国立大学体育大会 第3位

弓道部(男子)

- ◆ 第50回近畿地区国立大学体育大会 第3位



近国体優勝後(硬式野球部)



ほそだ かずとも
細田 一智さん



5月11日～12日



座禅を体験する参加者

留学生が学習旅行で天橋立へ

本学で学ぶ留学生に、日本の歴史と文化を体験学習してもらうことを目的に、天橋立への学習旅行を実施。日本語・日本文化実地検証プログラムで学ぶ留学生や協定校からの交換留学生な

ど総勢30名が参加しました。現地では日本の自然に触れると共に、座禅や写経、川柳などを体験し、日本の美やそれを維持する大切さを再発見しました。

5月18日



寸劇で金環日食の仕組みを解説する学生たち

附属幼稚園で金環日食勉強会を開催

5月21日に奈良市で282年ぶりに金環日食が観察されるのを前に、理数教育プロジェクトの学生らが、附属幼稚園児を対象に、金環日食に関する勉強会を開催しました。勉強会では、金環日食

がどうして起こるのか、その仕組みについて、寸劇による解説を行いました。太陽さん、地球さん、お月さんが舞台を走り回り、園児たちは興味津々に見入っていました。

6月6日



1本1本丁寧に田植えをしていく参加者

国際交流イベント「奈良実習園で留学生と田植え体験をしよう!」実施

本学に在学する留学生と日本人学生とが交流をするきっかけにしておうと、自然環境教育センター奈良実習園を会場に田植え体験イベントを開催しまし

た。当日は8カ国10名の留学生と日本人学生8名が参加、農作業の楽しさと難しさを、身をもって体験しながら、お互いに交流を深めました。

7月7日



講演する上司氏

世界遺産教育講演会を開催

日本／ユネスコパートナーシップ事業の一環として、本学がこれまで取り組んできたESD(持続発展教育)・世界遺産教育の充実と発信を目的に、世界遺産教育講演会(ユネスコスクール研修会)を開催しました。

当日は100名を超える方が参加し、

華厳宗大本山東大寺の上司永照氏と本学持続発展・文化遺産教育研究センター中澤静男専任講師による講演に熱心に聞き入っていました。

今後も引き続きESDに関する研究と教育実践を蓄積し、発信していく予定です。

7月20日



調印を終えて握手する岡田曾爾村長(左)と長友学長(右)

曾爾村と連携協力協定を締結

曾爾村との間に、「教員の資質向上及び教員養成の充実を図るとともに、教育上の諸課題等に適切に対応することにより、奈良教育大学及び曾爾村における教育・研究の充実・発展に資すること」を目的とした包括協定を締結しました。

サマースクールなど主に理数教育プロジェクトの事業として、これまで積み上げてきた実績を発展させるとともに、理数系に限らずさまざまな分野の学生を派遣するなど、より広い交流についても検討していく予定です。



5月14日



一緒にお弁当を食べる「あいぼう」



1・6年の「あいぼう」の合同遠足

附属小学校では、1年生と6年生が通称「あいぼう」関係をつくっており、1年生の入学への不安を少なくし、6年生は最高学年の自覚を促すことにつながっています。4月11日の入学式の日初めて会った「あいぼう」は、次第に打ち解けあっています。5月の春の遠足では、1年生と6年生

がいっしょに奈良公園の森の中を歩いて目的地の春日野苑地まで行きました。いっしょにお弁当を食べたり遊んだりして、楽しい半日を過ごしましたが、中には、1年生の自由な動きにとまどって、下の子を世話することの難しさを経験する6年生もいました。

5月16日



むしずかんを使って園児たちに説明する本学教員

附属幼稚園で「デジタルむしずかん」の贈呈式を実施

新理数プログラム（SST コース）を履修した学生（平成23年度卒業）が作成した「デジタルむしずかん」が完成し、附属幼稚園年長組の園児たちに贈呈されました。このむしずかんは、附属幼稚園の園庭や子どもたちの森で見つけた虫について解説したもので、園児たちが園庭に於いて手にとって読むことができる

よう願って作成されました。

贈呈式には「むしはかせ」として本学教員や名誉教授が参加し、園児たちの質問に答えました。

（デジタルむしずかん <http://biol-zukan-3.nara-edu.ac.jp/homepageTOP.html>）

8月6日～10日、17日～21日



歓迎の人文字



附属中学校が韓国公州大学校附設中学校と交流

昨年交流協定を結んだ附設中学校との交流がこの夏から本格的にスタートしました。8月6日に生徒7名と教員3名が公州から来日、長友学長ら大学関係者や附中教員・生徒らによる歓迎会を開きました。翌日は、生徒間のさまざまな交流やホームステイ先での活動を通じて交流を深めました。17日からは、本校の生徒7名と教員3名が韓国公州を訪問しました。初日に全校生徒と先生方による歓迎交流の会が行われ、翌日は相互訪問した生徒

と教員皆で公州市内の武寧王陵や史跡の公山城に行き、錦江を眺望する楼閣で歌を交換しました。そこには言葉の壁や国どうしの隔たりを楽々と越えていく、子どもたちの柔軟でたくましい行動力と心がありました。今年は『学ぶ喜びを知り、自ら学び続ける』教員の養成に向けた持続可能な発展のための教育活性化プロジェクト』からの予算支援があり、充実した交流が実現しました。

奈良に息づく仲間たち



自然環境教育センター長
教授 鳥居 春己



▲ナンキンハゼだけが生育している



▲ナンキンハゼの紅葉



▲ナンキンハゼを食べるシカ 餌不足？

ナンキンハゼ

ナンキンハゼは中国原産トウダイグサ科の落葉高木で、鮮やかな紅葉で奈良公園を彩っている。乾燥した果実は烏臼と呼ばれ、利尿剤などに使われる。また、種子から採取した油脂は蠟燭などの原料とされる。

シカが食べないということや鮮やかな紅葉ゆえにナンキンハゼは70年ほど前に導入されたのだが、今では困った存在となっている。ナンキンハゼは明るい環境で芽を出し、シカが食べないので各地で群落を作ってしまう。

鳥類が種子を好み、糞を介して分布を広げている。困ったことに春日山原始林の奥深くにも侵入している。そこは世界遺産の地であり、ナンキンハゼの侵入は原始の名前を意味の無いものになっていると言えるだろう。

残念なことに本学構内にも多くのナンキンハゼが生育している。世界遺産に影響があるとすれば、少なくとも構内からは排除するべきだと考えるが、如何だろうか。



1

教育資料館前のベンチ。
レンガ造りの建物と周り
の緑が作り出す雰囲気が、
とても気持ちいいです。
春には桜が咲きます。

やなぎさ みき
柳澤 美希さん(大学院1回生)

2

新館2号棟4階廊下の
北側突き当たり。東大寺
大仏殿の屋根が正面に
見え、なんだか気持ちが
落ち着きます。

かまた たいが
鎌田 大雅さん(幼年教育専修4回生)

3

新館2号棟4階の廊下
から見る夜景。遅くま
で残って勉強していると
きなどにふと眺めると、
思わずほっとします。

きむら みゆき
木村 美由紀さん(幼年教育専修4回生)

奈良教育 生に

聞きました!

vol.6

大学内の おすすめスポットは？

決して広いとは言えない奈良教育大学のキャンパスですが、高台に位置していたり、緑に囲まれていたり、歴史的建造物がすぐ近くにあったり、附属小学校があったりといろいろな特徴があります。今回は、そんなキャンパス内でのおすすめスポットを聞きました。

4

教職大学院棟の北側から見る附属小学校の風景。教員を目指す私にとって、見ているだけで癒されるスポットです。

やまざき ひでき
山崎 秀紀さん(教職大学院1回生)

5

教職大学院棟。共に学ぶ仲間らから毎日新しい刺激があり、どんどんやる気がわいてきます。

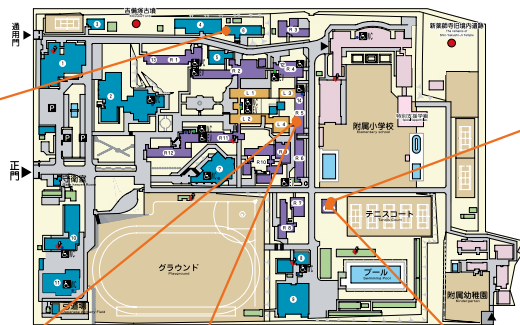
まとい ゆうき
的場 雄樹さん(教職大学院1回生)



1 教育資料館前



2 新館2号棟より



3 新館2号棟より



4 附属小学校



5 教職大学院棟



弊誌に関するご意見・ご感想をお寄せください。
また、QRコード対応の携帯電話にて
アンケートに回答いただくこともできます。
皆様からのご意見・ご要望お待ちしております。



なっきょん's
CLUB

広報誌づくりなど、広報活動を手伝ってくれる
学生広報スタッフを募集しています。
興味のある方は総務企画課広報担当まで、
お気軽にお問い合わせ下さい。



国立大学法人
奈良教育大学

奈良教育大学 広報誌『ならやま』

第41号 平成24年10月31日 編集／広報委員会 発行／国立大学法人奈良教育大学

3月・7月・10月各下旬発行

〒630-8528 奈良市高畑町 TEL.0742-27-9104 FAX.0742-27-9141 Email: kikaku-kouhou@nara-edu.ac.jp

※広報誌『ならやま』は大学ホームページからもご覧いただけます。

<http://www.nara-edu.ac.jp/>